

区民と区長のダイアログカフェ

令和6年8月22日

区民と区長のダイアログカフェ

令和6年8月22日

【広報課長】

皆さん、こんばんは。よろしくお願いします。

それでは、区民と区長のダイアログカフェを始めたいと思います。本日は急遽1名欠席がでましたので、一般参加者は5名ということで進めさせていただきます。

始まる前に、何点かご説明をさせていただきます。まず、事務連絡の1つ目として、従事者を紹介します。本日のファシリテーターを務めていただくチヒロさんです。チヒロさんは、トークイベントである文京区100人カイギ等の多数イベントで活躍されておられます。よろしくお願いします。

あと、前回までファシリテーターをしていただいたノブさんにも、本日は特別にオブザーバーとして参加していただいています。よろしくお願いします。

私は、広報課長の日比谷と申します。よろしくお願いします。

次に事務連絡の2つ目です。本日の記録を作成しますので、毎回要点記録を作成してホームページで情報提供させていただきますので、よろしくお願いします。ですので、録音をさせていただきます。個人情報伏せて出しますので、忌憚のないご発言をお願いできればと思います。

今回、皆さんにはニックネームで呼び合ってください。区長はピロリンということになりますので、区長と言わないでピロリンと言ってください。よろしくお願いします。

次の3つ目は、チヒロさんからお願いします。

【ファシリテーター】

私から本日の会場についてご紹介します。ここは、「コドモカフェ オトナバー TUMMY」というお店なんですけれども、子どもも大人も一緒に触れ合えるお店って、なかなかないじゃないですか。子どもがいるから遠慮してね、何かうるさいとか言われなくても済むような、すてきな交流の場ともなっています。コンセプトが、地域で育てる、みんなで育つ。

TUMMYさんのご紹介でした。ありがとうございます。

【広報課長】

では、ここから本題に入ってまいります。進行は引き続きチヒロさんをお願いしたいと思います。

よろしく申し上げます。

【ファシリテーター】

皆さん、今日はよろしくお願ひいたします。

先ほど、この会が始まる前に皆さんともお話ししていたんですけど、ノブさんが前任者でやられていて、私はこの会に参加したことで、文京区100人カイギという会を始めるメンバーに出会えたり、いろんな出会いがあって、この場が私はすごく大好きなんです。なので、区民の皆様が仲よくなっていたらいいなというふうに考えています。

それでは、お一人1分くらいでお話ししていただくと、いい感じで会話が回るのかなというふうに思っておりますが、今からお話ししたいのは、自己紹介と、こちらにまとめてあります、皆さんがお出しになったアイディアシートのタイトル、アイディアシートについては、このタイトルをちょっとまず付箋に書いていただいて、ここにちょっと、ご自身の前の模造紙に貼っていただきたいなというのを、まず一つやっていただいて、その後に自己紹介しながら、そのアイディアの説明をしていただけたらいいなと思います。

では、ご自身のアイディアを付箋のほうに、タイトルを書いていただいてもよろしいでしょうか。

そういえば、ピロリン、ご挨拶していませんよね。

【広報課長】

すみません。区長が到着しましたので、遅れてしまい申し訳ありませんでしたが、ご挨拶申し上げます。

【ピロリン】

皆さん、書きながらでかまいません、その時間を使ってご挨拶します。

今日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

もう企画の意図は説明をしていただいたと思いますが、なかなか、区長対話という、何か要望を言って回答をもらうみたいなものが、むしろ今までは一般的であったけども、みんなで考えて、お互いの悪口を言わず、対決型じゃなくて、何か最後、一緒にできるようなことを見つけるような会をつくりましょうというので、ノブさんと一緒に、もう10年近く試行錯誤をしながらこの形になって実施してきました。今日もそんな企画だということをご理解いただいて、何かみんなで一緒にできるようなことが最後に立ち上げられれば、大変ありがたいかなと思っております。このメンバーの中から出てきた、新ファシリテーターのチヒロさんも、2回かな、チヒロさん、参加していましたよね。

【ファシリテーター】

はい。2回。この会が好きなので2回参加させてもらいました。

【ピロリン】

どうぞよろしくお願いします。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。お願いします。

一人1分という趣旨は先ほどご説明をしました。あと、内容については、批判や否定とかではなく、明るい感じで、建設的なお話ができたらいいなと思っています。今日のゴールは、区民と在勤、在学者目線で、みんなにとって文京区が活性化につながるような施策について、みんなでアイデアを出し合う、そしていろいろな考えや情報を共有して深めていくという形で進行していきたいと思っています。

皆さん、じゃあアイデアのタイトルは書いていただいていますよね。では、アイデアシートの順番にお願いしたいと思うんですけども、「迷惑にならないお節介」、こちらのアイデアをくださった方いらっしゃいますか。はい、手があがりました。

では、〇〇さん、自己紹介とアイデアの詳細をお願いします。

【参加者】

〇〇と言います。地域のそば屋として働いています。

夫が47歳のときに大きなけがをして店を一旦休むことになりました。その最終日に、裏にお住まいのある方が食事にみえて「あなたお店を辞めたら何するの。保護司に推薦するからやってみませんか。」と言われました。これが私の人生を変えるありがたいおせっかいだったのです。それがきっかけで、20年間、保護司として今も活動をしています。

保護司とは地域で犯罪を起こした方の社会復帰のお手伝いをします。手紙のやり取りでは分からないことは刑務所まで行き、面会をして反省の度合い、弁償の意思など確認して、観察所へ報告します。執行猶予中の対象者には再犯を起こさぬよう、保護観察期間は月に2回の面接をうちでしています。相手を思い寄り添うことが大切だと感じています。

地域でも同じ。相手の気持ちを考えて接することが大切だと考えます。おせっかいは切匙が語源とも言われ、すり鉢の細いところに詰まったのを取り除くのが切匙。アイデアの名称として「迷惑にならないお節介」を提案したいと思います。

以上です。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

すばらしいですね。裏の家の方がおせっかい。

【参加者】

裏に住んでいた方が、保護司会の元会長さん。女性の方なんですね。最後に食べに来てくださって、何をやるの、やらないと言われて、はいやりますと言ってしまったら決まったんです。

【ファシリテーター】

すごく重いお仕事な感じが。

【参加者】

全然そんなこと。

【参加者】

映画でありましたよね。

【参加者】

ありました。あと、この素晴らしき世界とかいう映画も。

【ファシリテーター】

迷惑にならないおせっかい。ありがとうございます。

後ほど、またみんなでいろいろお話ししたいと思います。

【ファシリテーター】

では、次、「子ども・若者が憧れる地域の大人像を増やしたい」。こちらのアイディアは、どなたですか。〇〇さん、お願いします。

【参加者】

〇〇です。自己紹介とアイディアの内容ですよ。

子どもが、下が小学校3年生で、上がちょっと10歳離れていて高校3年生なんですけれど、やっぱりそういう子たちを見ていて、大きくなったらこういう大人になりたいというような地域の大人っているかなということ、自分の子ども時代を考えると、いなかったかもしれないとなっていて、地域のつながりということも含まれているし、大人と子どもがいい関係を築く、一方的に上から言うとかじゃなくて。そういうことが何かできたらいいなと思って、このアイディアを出しました。

ちょっと書いてあるんですけど、まずは子どもとか若者とかがこうやってダイアログして、どんな大人に憧れるかみたいなことを聞いて、出てきた大人像に近い地域の人って、じゃあ何々さん、例えば〇〇さんとかいいんじゃないみたいな話を、大人たちが周りで知恵を絞る、

〇〇さんのところにみんなで話を聞きに行くみたいな、そんな取組をしてみると、地域の知らなかった大人のことを子どもが知れるというのもあるし、大人も自分の子たち以外の子どもたちに気を配るとというのが、そういう関係ができるかなと思っていました。じわじわ広がっていったら面白いんじゃないかなと思いました。

以上です。

【ファシリテーター】

はい。ありがとうございます。

何かちょっと、お話が深まってきて、似ているなというのが。ここからここに行けるなという。どんどん地域に広がっていく活動になりそうな気がしましたね。〇〇さん、ありがとうございます。

続きまして、「自分のからだをよーく理解しよう。そして、もしも！が起こっても大丈夫なように備えよう」、こちらのアイディアの方は、〇〇さん。よろしくお願いします。

【参加者】

私は大塚に住んでいて、よくライフとかサミットとかに買物に伺っています。でもここのお店は全然知らなかったの、ちょっと1本入ると分からないなというふうに思っています。

私、そもそもが関西出身で、10年前に転職で文京区に来ました。半分はまだ仕事を大阪でもやっているの、文京区にずっといるわけではないですけど、住民票がこっちにあります。

私、結婚もしなくて、一人です。だけれども、ノブさんと別の会でいろいろしていたりして、病気を持つ方が周りに結構いらっしやったり、あと、病気になられる方も結構いらっしやって、そういう方々って、自分がいざ、子どもがいらっしやる親の方だったら、自分が病気になったら子どもをどうしよう、どこに預けたらいいの、しかも、がんとか長期入院、長期で治療をしなきゃいけないときって、お子さんが二人とかいたら、そのお子さん二人どうするんだろう。片方のお子さんが病気になったら、じゃあそのもう一人のお子さんが、お母さん、お父さんの愛情を受けられなくなってしまうとか、そういうこととかをよく見えています。また、いろんな社会保障とかがあるんですけど、やっぱりそれって、いざなったとき、自分の体のことがいっぱい、どういう保障が受けられるのという知識がなくて、後から、そういうのがあったんだ、こういうのがあったんだと。結構、文京区って手厚いんですよ。

【ファシリテーター】

そうなんですね。

【参加者】

はい。予防の部分についても、住む場所によって全然違うんですよ、実は。文京区はめっちゃいいんです。

例えば、健診、2年に1回、がん検診、文京区は無料ですよ。婦人科健診、胃の健診。でも私が地元に戻れば有料なんです。あと、ワクチン接種、带状疱疹、50歳以上だったら、文京区だったら1回あたり1万円ぽんと出ますけど、私が地元に戻るとゼロ、補助が出ないんですよ、全額自費。そういう形で全然違うんですね。そういうことで、住んでいる人もあまり知らないと思うし。

【ファシリテーター】

当たり前ですものね。知っていれば当たり前だし。知らなければへーって感じだし。

【参加者】

なので、そのところも、全然知らないよなというところがあります。

話を戻して、病気になったとき、いざなったとき、慌てる。けれど予備知識があれば、どこに相談したらいい、何を私にしたらいいというのが分かっているれば慌てなくて済むけれど、そういうのを学ぶ場所ってないですよ。そういう場所をつくりたいなと思います。それは子ども目線でも、もし、お母さん、お父さんが病気になったら自分たちはどうすればいいんだろうというの、知っていれば違うと思うし、いろんな、これからいっぱいできるような勉強ができれば、楽しく勉強ができるのができればいいなと思っています。

結論、最後下のところに書いたんですけど、皆さん、病院に行かれて、お医者さんにどうされましたと聞かれて、そもそも問診を書いているのになぁと思いませんか。どうしましたかって、いや、問診を書いているんですけど、他に何を先生は教えてほしいんですかと思いませんか。でも、先生たちに聞くと、何か問診に書いていることプラスアルファ何か聞きたいみたいな、そういうことをおっしゃるんです。そんなこと、言うておいてもらわないと知らないし。私、ずっとこれを不思議に思っていて、お医者さんに聞くと、結構そういうふうに言われたりして。そういうこととかも事前に知っておくと、お医者さんのかかり方とかも変わってくるので、そういうのも教えてもらえれば、うれしいなと思っています。

以上です。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

知らないことばかりなので勉強になるなと思いながら。後でいろいろ質問したくなっちゃうと思いました。ありがとうございます。

では、「健康寿命を延ばす街」、こちらのアイディアをお持ちの方、〇〇さん、お願いします。

【参加者】

私は向丘に住んでいて、今日はこんな短めの髪型をしているんですけど、これはおとといぐらいまで、プラス50センチぐらいありました。実は、物すごい長かった髪ヘアドネーションで50センチ寄附したので、この髪型になって、ついでにちょっと色を遊んでみたということになります。

私のアイディアは健康寿命を延ばす街ということなんですけど、私も関西出身でして、うちの父と離れて住んでいるんですけど、仕事を辞めてから老人性うつというのになったんですけど、すごく元気な人で、趣味とかもあったんですけど、本当に急にあんなになっちゃうんだなというぐらいに、もう転がり落ちるような体調不良というのを目の当たりにして、大変なことだな、こんなふうになるんだなというのを、経験しました。

それで、私が最近、それとは別にテニスを始めまして、1年前からテニスをやっていて、はまっていて、毎日2時間から4時間、毎日のようにやっているんですけど。それで、そこでやっぱり10代から70代ぐらいの人とすごくお会いするんですけど、たまに80代の方とかもいらっしゃるんですけど、この暑い中、私がもう敵わないぐらい、ここだけのコントロールで走り回されて、何かもう全然敵わないんですけど。多分、その方たちは、もうちょっと若い頃から、そういう生きがいを持ってやっていて、何かそういう歳をとっても楽しめるものが、何かあればいいなと思ったんです。それで、テニスって6人ぐらいでやるので、結構楽しめます。

【参加者】

そんなに。

【参加者】

そうなんです。4人ずつ交代でやるので、2人ずつ休みが出たりするんですよ。そこで、そのおじさまたちとお話ししたりするんですけど、何かうちの父の状況をお話ししてるときに、お元気でいいですよみたいな話をしていたら、やっぱり自分も1回定年したときって、みんながスーツを着て出かけているのに、俺は何をしているんだろうと思ったときがあったよと言っていて。それで、誘われてテニスを始めて、すごく楽しくなって今、やっているんだと言っていたので、何かそういうきっかけが、65歳で引退ならば60代からとか、私はたまたまテニスをやっているの、テニスをきっかけに思いついたんですけど、何でもいいので、区で、ちょっとお金がないとかだったら、無料で取っかかれるきっかけとかいうのをくれた

らいいなと思いました。何せ都会なので、土地がないとかいうのもあると思うんですけど。文化系だったり、お料理だったりでも、何かそういう、始めるきっかけ、興味があることを、うちの母なんか、健康マージャンとかやっているんですけど、ああいうのもそんなに場所が要らないので、そういう頭を使うこととか、はまれる趣味みたいなことを何か導入していけるような。何か、弱ってから、何か介護とかというのに手厚くするよりかは、そうならないうちになつたらいいなというふうに思っていて。やっぱりそうやってみんなで楽しくやれる機会というのが、テニスだけじゃなくて、いろんな人たちの興味とか、出られる場所ができたらいいなと思っています。

【ファシリテーター】

いいですね。これですね、まさに多世代交流。

【参加者】

そうですね。今日のテーマ。

【参加者】

本当に多世代交流しているんですよ。

【ファシリテーター】

じゃあ、多世代交流、みんなでまた深めていけたらいいなと思います。ありがとうございます。

では、最後のアイデアですね。「スマートフォンをもつ習慣を徹底すべきかどうか」、こちらのアイデア、〇〇さん、お願いいたします。

【参加者】

SNSの話をする子がいたりするのですが、子どもたちが押そうという意思がなくても、触れただけで見ることができたり、そういう成人向け、特に男女、画面などに出てきて…。

【参加者】

自己紹介を聞くの忘れちゃった。背景を伺っていいですか。今日はどちらからいらっしゃったんですか。

【参加者】

本郷なんですけど。ずっと、専業主婦をしまして、SNSをちょっと始めてみたら、自分でする仕事のアイデアが浮かんだりとかそういうことができるかなと思って、こつこつSNSをしていたんですよ。いろいろ見ていると、やっぱり、宣伝だけのためにSNSをしているわけではなくて、18歳…。

【ファシリテーター】

子どものSNSの使い方の教育みたいな。

【参加者】

そうですね。スマートフォンなどで、変なサイトの宣伝が出てきますよね。いきなりそういうぱっと画面が出てきたりして。子どもは見てしまいますよね。18歳になっていなくても。それはどうなのかなという。そのお金もうけのためだけに、作られているのでしょうか、そういうのを子どもが見ても仕方がないような仕様になってるのが普通になっている。だからそういうものがどうなのかなと思って。

【ファシリテーター】

私の娘が今26歳なんですけど、ちょうど携帯だかスマホだかを子どもに持たせるかどうかみたいな、始まりぐらいの年齢だった。

【参加者】

みんな考えますよね。何歳から。

【参加者】

そうしたら、学校で、PTAで会を1年に1回、誰か講師を呼んでやるというのをやって、それでSNSのそういう、こういうサイトは駄目だとかいうのを講習するみたいな会をやって、子どもたちに、そのボタンは押しちゃいけないんだとかね、そういうのをやっていました。

【参加者】

押すな押すなと言われると。

【参加者】

押して見たくなる。

【参加者】

でも、教育は確かに必要な分野ですよ。

【参加者】

うちは3人子どもがいて、3番目の子は一番心が弱いんですよ。ちょっと、ついつい見ちゃうタイプ。

【参加者】

だから、みんな持っているんですけど、うちは中学に入った時点で、約束を守らなかったらもう取り上げる。もう返さないというのを結構やって、結構、親としても結構メンタルが要るんですけど、でもやっぱり約束をするので返さないとか、また返して守れないようだったら取

り上げるとかいうのをやっぱりやらないと。

【ファシリテーター】

まずは親子から、家庭からみたいなの。

【参加者】

長女とか次女はやっぱり自分のやることがいっぱいあるので、勉強とか、課題とかというのをやらなきゃいけないから、やっぱりそっちが優先されるので、多分、見ていたら終わらないんですよ。うちに関しては、長女と次女はやっていない。三女はやっぱり見ていますけど。常にそういうことをやっている、自分の人生がそれにとられちゃうんだよとかというのを言ってみたり、ちょっと取り上げたりとかという感じですかね。

【参加者】

ちゃんとしていらっしゃる。

【参加者】

守れない。心が弱いから、3番目は。

【ファシリテーター】

でもそこで経験ってしますものね。あーあ、宿題が終わらなかったなとかね。ママに怒られちゃったなとか。

【参加者】

自分もできない。

【ファシリテーター】

というアイデアが出ました、今。そんな感じで。どうもありがとうございます。

それでは、今日のテーマ、多世代交流を中心に考えてみよう、こちらについてなんですけれども、何か、皆さんのお話を聞いていると、多世代に勉強する機会をつくるとか、憧れるとか、ここからここにつながって、集まった人たちがこっちに流れて行ってとかという、何か、いい流れができそうな気がするんですね。なので、ちょっと皆さんが出したアイデアの中で、もうちょっとこれを足したらいいんじゃないかみたいなアイデアができれば、付箋に書いてちょっと貼ってもらいたいと思います。

【参加者】

これをピロリンはどのように聞いて、どのように参加していくのかをすごく聞きたい。

【ピロリン】

いや、僕もアイデアを一緒に書きますよ。

【ファシリテーター】

この全部のアイデアをまとめるとなると、まとめればいいんですけど、ちょっと心配になってきちゃったので、一つ、せーので指を差して、それを話し合う内容として選びたいと思います。

【参加者】

その1個についてみんなで膨らませようみたいなことでいいですか。

【ファシリテーター】

それをくっつけてというのも、もちろん大丈夫ですし。これもアイデアの一つになりますよね。何かちょっと、こちらを中心に考えてみるとつながりやすいのかなとかと思ったので、ちょっとつなげて、例えば、迷惑にならないおせっかいの会をやるとか、住民で集まって勉強会を開くのかなか、そういったアイデアっぽいものを、別の方のアイデアに一つ付け足してもらいたいんですよ。

【参加者】

別の人アイデアね。

【ファシリテーター】

お隣の人について、アイデアを一つ付け足してもらってもいいですか。こういう感じで。

【参加者】

私はこちらの〇〇さんの。

【ファシリテーター】

〇〇さんは〇〇さんの。〇〇さんは〇〇さんの。テーマは多世代交流を中心に考えていますので。

【参加者】

難しいね。

【参加者】

スマートフォン自体は、もう持たないと生活できないような、うちも多分、5か月で保育園に行ったり、スマートフォンでチェックしないと預けられない。

【参加者】

じゃあ、スマートフォンを持っていなかったらどうなっちゃうんですか。

【参加者】

駄目なんじゃない。

【参加者】

駄目ですか。

【参加者】

多分、今、あれとかどうなんですか。マイナンバーとか、ああいうのとかも。デジタルとかになっている。

【ピロリン】

いずれスマホの中に入りますよ。ただ、相当後みたい。

【参加者】

だから、何も自分でそのスマホで、何を使うかというのをね。

【ピロリン】

選べるか。

【参加者】

チョイスしていくしかないですよ。時代的に。

【ファシリテーター】

時代的にね。そんな気がします。

じゃあ、〇〇さんは〇〇さんのアイディアに何か、こういうのを付け足したらいいんじゃないかな。

【参加者】

自分の趣味で、例えばグラウンドゴルフのおばあちゃんがいたりとか、何でもいいんですけど、そういう。

【ファシリテーター】

別にテニスに限ってはいないですよ。

【参加者】

そうです。そうやってきっかけを、何かどンドン、うつみたいになる前に、落ち込む前にやりたいことを見つけたりとか、みんなと関わって楽しい楽しいという老後が送れたらなというのは。ただ現実には健康寿命が延びるといふ、寿命が延びるといふデータが出ているみたいなので、私はそれしか知らないですけど、そういうので、何かこう健康に過ごせるように、結構周りで、腰が痛い、足が痛いとか言っている人が多いので。何かやっぱり、テニスは走ったりするので。そういうふうには何かほかの何でもいいです。ゴルフでも何でもいいけど、そういうきっかけとかをつくって。

【参加者】

サークル活動みたいな。

【参加者】

そうですね。楽しめるように、出て行けるきっかけがあったらいいなと思うという感じです。健康寿命を延ばす。

【参加者】

文京区はね、65歳になると近所のスポーツジム、いろんなどころがあるんだけど、そこで12回だったかな、無料で体験ができる。

【参加者】

手厚い。さすが手厚い。

【参加者】

そうだから、夫と2人で。

【ピロリン】

1年だけです。その間に運動習慣をつけてください。

【ファシリテーター】

66歳からは駄目なんですね。

【ピロリン】

いやいや。

【参加者】

以上になったら。

【ピロリン】

65歳以上だったら、別に80歳でもやってもいいし、75歳でやってもいいし。

【ファシリテーター】

初めの一步を。

【ピロリン】

1年間、12回の手始めの一步を応援するけど。

【参加者】

いろんなどころに行ってみて。

【参加者】

教育の森にあるやつですか。

【ピロリン】

違います。民間のスポーツクラブ。

【参加者】

民間のスポーツクラブ。

【ピロリン】

ただ、でもそれは1年間だけ。そこでスポーツクラブがいいと思った人は、自分で何か朝のモーニングタイムだとちょっと値段が安くて、高齢者がすごい来ているという。そんなに行けない人だったら、スポーツセンターとか、総合体育館だったら何百円で行けるから。

【参加者】

どうやってもらえるの、申請したら全額補助してとか。

【参加者】

いや、全額補助というよりも。

【ピロリン】

券、チケット。

【参加者】

チケットを送ってくれるんです。

【参加者】

文京区でやっていましたね。もうそれでいいような気もするけど。

【ピロリン】

申請すれば。

【参加者】

でも、スポーツクラブは多分続かないですよ。

【参加者】

でもやっぱり、それを知らないと。12回だって習慣になりますよね。

【参加者】

区報をチェックしていると、ちゃんと出てきます。

【参加者】

区報なんだ、やっぱりね。

【参加者】

SNSじゃないんですね、紙媒体ですね。

【ピロリン】

SNSでも発信しています。

【参加者】

ピロリン的にどれがいいとかはどうですか。

【参加者】

これを多世代に広げるって難しくないですか。

【参加者】

これはご意見のところなので、もっと。

【参加者】

多世代交流ということですよ。

【ファシリテーター】

多世代交流につなげる…掛け合わせ。掛け合わせアイデア。

区では、多世代のサークルみたいなのってあるんですか。区報とか見ると。

【参加者】

多世代サークル。

【ファシリテーター】

ずばり聞いちゃった。

【ピロリン】

多機能な居場所というのがあって、多世代交流、千石での風のやすみばだとか、そのライフの前というところ。

【参加者】

何かありますね。

【参加者】

つゆくさ荘。

【ピロリン】

つゆくさ荘。そういうところが社会福祉協議会が中心になってやっている、多機能な居場所ということで、そこは場所によるんですけど、すごい多世代化している。一番有名なのがこまじいのうちというところで、そこは本駒込にあるほうですけど、そこは、午前中は未就学の子どもたちのいるママさんたちがおしゃべりをしながらそこにきていて、お昼近くなってくると、近所のおじいちゃん、おばあちゃんたちが来て、それこそ健康マーじゃんをやったりだとか、

おしゃべりしに来たりというので、囲碁将棋をやったりとか、手習いをやったりとかいろんなことをやっていて、放課後ぐらいの時間になると、小学校の低学年の子たちがランドセルのまま来て、そこでまた、おじいちゃんたちと交流したりなんかしていくとかというのがやっている。そこがモデルケースになって、広がって行って、幾つか拠点ができているんですけど。多世代化できているところは実はあまりなくて、交わる世代ができているけど、風のやすみばはどちらかというと高齢者中心。

【参加者】

そうですね。でも今、夏休み中は、勉強をしたい子どもが朝からずっと。毎日毎日来ています。

【参加者】

そうなんですか。居心地がいいんですね。きっと。

【参加者】

そうですね。

【ピロリン】

共同印刷の前をちょっと入ったところでやっているのは。

【参加者】

さきちゃんち。

【ピロリン】

さきちゃんち。さきちゃんちは、もうこま貸しですよ。こま貸しでやりたい人たちがそこに来て、私はこんなことが、自分が主催してこんな活動ができるので、そこで参加しませんかという人たちがいろんな活動をやっているのでも多世代と言えば多世代。そういうようなところは区が家賃助成みたいな、あとは運営費の補助をして回している。そこも、その活動を社会福祉協議会に、社会福祉協議会は区内で4地域に分かれているんですけど、本富士、富坂、駒込、大塚で、そこに大体二人ずつの地域支援、地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーターがいて、その人たちが、ここにごみ屋敷がある、ばーっと行ってやったりだとか、ふだんはそういう拠点で、支援の活動をしている。

【参加者】

そんなに、地域コーディネーターの方がごみ屋敷の片づけをやると、怒られないですか。

【ピロリン】

家に上げてもらうまでに半年ぐらいかかるんです。

【参加者】

そうですね。テレビでやっているのを見て。

【ピロリン】

そんなに簡単な話じゃないんです。

【参加者】

すごい。

【ファシリテーター】

ここで皆さんのアイデアができちゃう感じですね。多機能な居場所がね。そうしたら健康の講座もできそうだし、大人との交流も。

【参加者】

例えば、〇〇さんが、そこでやりますとって、講義をすればできるということですか。

【ピロリン】

そうですね。さきちゃんちはそういう事業の組立てですね。一人じゃなかなか難しいかもしれないですけど、協力者がいて。でもそこに出入りすることによって協力者が出てきて。

【参加者】

駒込のほうが多世代になっている、できた理由って何かあるんですか。こまじい。

【ピロリン】

こまじいは、基本的に地域に根差していて、駒込地区にある町会がみんな少しずつお金を出し合って育てて、地域のオフィシャル施設になっているんですね。怪しげな活動が始まったわけではないので、本当にそのおせっかいな、いい意味でのおせっかいな高齢者の人たちがどーんといて、なので、入りにくいという人もいます、実は。だからそれは、実はこの居場所系は、どちらかという早い者勝ちなので。年齢的に、どちらかという、マウントを取ろうとしているわけじゃないけど、結果としてそうなっている人たちって、たくさん世の中にいるじゃないですか。なので、その人たちの仲間内はすごく集まってくるんですけど、入れない人がいるのもそれは事実で、それは社会はそんなものなので、全ての人が出入り自由で、すごい居心地のいい場所なんかなかなかないので。だから、さきちゃんちみたいにこま貸しをすると、自分たちの仲間だけでその空間を、2時間なら2時間使うことができ、そこで何かこの後のこまを使ってる人たちの何か興味深いから今度行ってみようかしらとかというんで、だんだん横のネットワークが広がってくると、そういうハードルが下がるんだと思いますけど。

【参加者】

ここも、私も何度かお借りしてイベントをしたり、似たような感じで使わせていただいているんですけど、民間の施設だと家賃とかがかかるので、それを区が助成してくれたらいいなんて思いながら。

【参加者】

ここもですけど、やっぱり、しょっちゅう通っていても、1本入ると分からないじゃですか。こういうのって、発信ってどのような感じでされているんですか。こういうのがあるって、こまじいしか知らなかった。

【ピロリン】

でも、それは、ホームページだとか、今はSNSになっちゃうんですけど、地域活動センターごとにいろんな発信を、今、文京区に九つの、昔、出張所と言っていたんです。昔は住民票を取ったりなんたりができたんですけど。今でも住民票は取れますけど。そういうのがあって、地域のお世話をする、所長になって、区の職員がいろいろとやって、そこはSNSの発信とかをしていて、こんな活動をやっていきますよと、そういうのを登録しておいていただくと、必要などきだけ見ていただいて。この手の情報って大量に流れているので、区報にしろ、ホームページにしろ、SNSにしろ、CATVにしろ流れているので、取りに行かないと見つからないんです。

【参加者】

結構堅苦しい文章のイメージが、正直、区のホームページって、調べたら、役に立ちましたか、はい、いいえみたいな、あのページしか何かイメージがなくて。なかなかこう、こういうのがあるんだなというのって、それこそ、区議さんとかのこういうのに行きましたよとかというのしか。

【参加者】

区議の発信で知るみたいな。

【参加者】

そうですね。それか何か、それこそSNSで申し訳ないんですけど、今日、イベントに行ってきましたとか、何日までやっていますよとか、こまじいに行っていましたとかというのを見て、そうなんだと。

【参加者】

そういうのがあるんだ。

【参加者】

たまたま私は知り合いが何人かいるので、フォローしているから知っているだけかなという
ものもあるんですけど。

【ピロリン】

これ、たまたま汐見の地活の。

【参加者】

汐見の地活。

【ピロリン】

地域活動の公式ラインですけど。

【参加者】

公式ラインなんてあるんだ。

【ピロリン】

例えば、これは坂下テラスという、こういうのがありますけど、ここでは今月はこんな活動。

【参加者】

じゃあ、各地域活動センターを登録していたら、いろんなことが出てくるということか。

【参加者】

それ、全然知らなかった。

【ピロリン】

鷗外記念館で、子ども向けの学芸員のギャラリートークがありますよとか。

【参加者】

じゃあここに、私、こういうのをやりたいんですとか、企画持込みとか。

【ピロリン】

そうですね。これも高齢者向けから始まったやつですよ。カーリング、氷の上でやるのを。

【参加者】

カーリング。

【ピロリン】

カーリングのテーブル版とか。

【参加者】

考えた方が文京区の方なんですよね。

【参加者】

すごい。

【参加者】

何か図書館で、吹き矢とかありましたけど。

【ピロリン】

千駄木の郷という老人ホームの談話室で、ただおしゃべりする。

【参加者】

いいですね。

【参加者】

各地域活動センターでグループがあるんですか。

【ピロリン】

各地域活動センターでこういうのを出している。だから、この坂下テラスという居場所で。

【参加者】

全然知らなかった。

【参加者】

何か、ここへ来て初めて知ったんですけど。それはみんなにどう……。

【ピロリン】

水曜日はマザーとか、こんな活動をしています。

【参加者】

いいじゃないですか。ここが広報センターみたいになっているじゃないですか。地域の。

【参加者】

これ自体の何かQRコードが欲しいですよ。

【参加者】

これは何か、みんなが知らないのがもったいないような気も。

【参加者】

もったいない。

【ピロリン】

そうですね。それぞれの地域活動センターがそんなものはやっている。紙でも出しています。その場所に行けば。

【参加者】

これ何か、すごくいい区になりそう。みんなのアイデアがここでどんどんできたら。

【参加者】

私、結構地域活動センターへよく行っていたんですけど、知らなかったな。

【参加者】

向丘だと汐見ですかね。

【ノブ】

ちょっと口を挟んでもいいでしょうか。

今日の一応この会の目的は、ピロリンから教わるのではなく、みんなでこの方策を考えるなので、今のお話を伺っていて、これはあくまでも私の案ですけど、多世代が今日のキーワードなのでいいんですけど、何かつながる場はあるねと、ピロリンの話を聞いて感じたことがあったよと。

だけど、それを、みんなの話を聞いていると、知るにはどうしたらいいんだろうとか、あるいは、それがもっと広がるにはどうしたらいいんだろうとか、何かこういうのをちょっとキーワードで、みんなが逆にピロリンに対してというか、みんな同士でアイデアを出すというのが、もう少し必要なと思いました。区がどうやっているかを確認するのは、後ほどピロリンから教えてもらえばいいかなとちょっと思いました。

【参加者】

やっぱりこういう場に出てくるといろんな情報が入るから、まず、皆さんはスタートしたんじゃないですか。そこから、自分の興味がある、RUN伴という認知症の啓発イベントがあって、認知症のことを地域で知ってもらいましょうというの、私、最初の頃からやっているんですけど、そのときに、ファシリテーターさんが去年はMCをやってくださったりね、走っているところを、団体に走ったり、個人で走ったり。

【参加者】

このお店の中にもチラシが置いてありますね。

【参加者】

動画を撮りながら、後で言葉を当ててくれて、それを映画にして、文京映画祭に出したりとか。

【参加者】

区の中で循環。

【参加者】

そうそう。イベントに参加するといろんなことが見えてきます。RUN伴のメンバーが、今週の日曜日に、文京思い出横丁というのをやったりとか。

【参加者】

私、花火担当。

【参加者】

いろいろやっている。

【参加者】

花火になったんだ。私、ごみ担当。

【参加者】

〇〇さんも行くというから。

【ピロリン】

開会式挨拶担当。

【参加者】

見に行こうと思って。挨拶は何時からなんですか。

【ピロリン】

11時開会ですよ、たしか。

【参加者】

そうだったかな。

【ピロリン】

うちのお寺だから。

【参加者】

そうそう。朝顔市に行ったら、ピロリンがまずはお墓参りに。ここにお墓があるんですかみたいなの。

【参加者】

そういうふうに一歩を踏み出すのにはどうしたらいいとか、そういう話ができたら。

【ピロリン】

踏み出すと情報にぶつかりますからね。

【ファシリテーター】

これについてもうちちょっと。

【参加者】

自分ができることは何だろうと思ったときに、子ども食堂とかのお手伝いとかだったらできるかなと思って、1回探したことがあったんですよ。そうしたら、今、人手が足りていますと。

【参加者】

人気があるところはそうなんです。

【参加者】

そうなんです。それで、何か、PTAもやっているんで、PTAの会長に言ったら、ああいうところは人気があって要らないんだよと言われたんですよ。

【参加者】

どちら。

【参加者】

どこだったか。文京区の何か幾つか探して、どこも要らないって書いてあるんですよ。

【参加者】

定泉寺の子ども食堂は200人ぐらい来るから、いつでもボランティアを欲しがっている。

【参加者】

よかったですね、ボランティアする場所が見つかって。

【参加者】

本当に。要らないとかいっていたから。どこだったんだろう。

【参加者】

本郷小学校のすぐ近く。

【ピロリン】

本駒込ですね。本郷通り沿いの定泉寺。

【参加者】

じゃあ、向丘に近いですね。

【参加者】

そうですね。私それでチーンってなって。

【参加者】

なりますよね。やる気満々だったのに。

【参加者】

探したのに、だったから。

【ピロリン】

〇〇さんのところは足りているかもしれない。あそこは20人も入れればいっぱい場所だから。

【参加者】

企業さんも応援に入られるから。

【参加者】

だから、私は行きやすいところで探したので。

【参加者】

やっぱり近くに行きますよね。

【参加者】

そうなんですよ、だから足りているんだなと思って、もうそれっきりなんですけど。

【参加者】

定泉寺のほうがいいですよ。坂を下りないで済みますから。

【参加者】

そうなんだ。

【参加者】

本当にすごい数 comes んです。おじいちゃん、おばあちゃんも来るし、子どもさんも来るし。

【ピロリン】

兆徳のチャーハン屋があるじゃないですか。あそこから駒込のほうに200メートルぐらい、左側の。

【参加者】

今の子ども食堂に、おじいちゃん、おばあちゃんが来るって、それこそが多世代交流の場にならないんですか。

【参加者】

なります。

私、そこで料理を作っている、200人分ぐらいの料理を作っているのが、保護司仲間なんです。一人でやっています。

【参加者】

200人。

【参加者】

本当にすごい。私、商売をやっているから分かるけど、200人分作るって、何日も前からやらなくちゃできないんだけど、一人でやっていて、絶対人に頼まない、自分でやったほうが早いから。それでボランティアも。

【ピロリン】

もともと〇〇だった方ですよね。

【参加者】

そうなの。来てくださいということを誰も言わないでも、ボランティアが自然と集まってくる。少ないときもあるから、黙って行っても喜ばれます。そこは。

【参加者】

募集していないということですよね。表向きはないということですよね。

【参加者】

ない。誰が来ても大丈夫よという感じなの。

【参加者】

いつやるかは分からないんですよね。

【参加者】

私はフェイスブックでチェックしています。

【参加者】

フェイスブックか。やっぱりSNSが便利なんですよね。

【参加者】

そのフェイスブックでやっている日に向けて行く。

【参加者】

そうです。

【参加者】

で、飛び入りでお手伝いすると。

【参加者】

DMして、行ってもいいですかとか。そうすると、エプロンと三角巾はしてくださいとか。途中抜けてもいいですよとか。

【ファシリテーター】

やっぱり、こういう、ふだんだったら会うことがない人たちが集まると、こんなに情報が出てくるって、びっくりしちゃう。こういう会をやったらいいのにね。もっとね。月1くらいで。お茶飲みながら。

【参加者】

でもやっぱり出てくる人って積極的な人じゃないですか。その出てこない人をどうするかで

すよね。

【参加者】

文京区のラインがあるじゃないですか。催物のお知らせとかはしているけれども、そういう子ども食堂のボランティアが今週ちょっと足りないですとか、そういうのとかを、ぽんぽんと、ボランティア、誰でも来てほしいみたいなのを、ずっと流していれば、そのうち、行ってみようかなみたいな。急には行けないけど、いつも見ている人とかがいて、今日はちょっと行ってみようかなみたいなというのはいないんですかね。

【参加者】

いいですね。ボランティアライングループね。

【参加者】

あれってやっぱり、情報を精査しないと、文京区のラインには載せにくいとかあるんですかね。

【ピロリン】

まさに広報課がやっている作業なんですけれど。

区役所にはなかなかその情報が入らないんです。なので、自分たちでも。実は子ども食堂は2種類あって、自分たちは地域の居場所だ、子ども食堂って一番最初は、貧困の子どもたちがなかなか食べられないから、おなかいっぱい食べさせてあげたというところから始まって、福祉系の色彩の強い子ども食堂は、意外とクローズだったりします。あとは、居場所系、定泉寺さんみたいに、誰でもいいですよ、ここはもう交流の場所だから、居場所だからとやっているところは非常にオープンにやっていますけど。本当に困っている子たちにちゃんと直接支援しようというのを目的にやっているところはクローズで、ホームページとかそういうSNSとかで発信しないけど、ちゃんと自分たちの情報を仕入れた子たちというのは、その福祉的な色が強いところはあまりオープンにしちゃうと、対象の子たちがどういう性格の子たちかばれちゃうので、それはスティグマをつけることになるんで、それはやらないとって、あえてクローズにしているところもあって、性格によって参加する側がそれを配慮しながらやっていますので。

【参加者】

正直、文京区で、そこまで食べられないって、そんなにいるんですか。

【ピロリン】

結構いるんです。生保と就学援助世帯と独り親と混在しますけど、1, 800から2, 00

0世帯ですから。

【参加者】

文京区って、結構、土地とか家賃とかも高いじゃないですか。それが高いから生活できないということですか。もともと住んでいたところが。

【ピロリン】

それはいろんな理由があると思いますけど、家賃が高くて払えないで1回区外に出たけども、そうしたら子どもが不登校になっちゃって、高い家賃だけ戻ってきたということで、生活が厳しいという人もいるし。

【参加者】

探せば、木造のアパートで3万、4万ってありますよね、今。お風呂もうちにないですけど。

【参加者】

昔ながらの家ということですよ。

【参加者】

文京区に。

【参加者】

あります。

【参加者】

江戸川橋のほうの子ども食堂をやっている会社さんで、ちょっとお話を聞いたんですけど。やっぱり、ピロリンが言ったみたいに、最初は福祉的な感じでやっていたけど、そうしたら、そこに来ている子どもたちがほかの子たちからいじめられたと。貧乏だからそこに食べに行っているんだろうみたいな。だから、あえてオープンにして。

【参加者】

なるほど。あえてオープン。

【参加者】

だから、誰でも来ていいという場所だから来ているんだよというふうにするようにしてという話を聞いたことがあって。本当に届けたい人に届けたいとしても、やり方がいろいろ難しいんですよ。

【ピロリン】

学習支援なんかも全くそうで。あまり、すみません。僕があまりしゃべっちゃうと怒られる。

放課後の学習、学校の終わった後の放課後の学習支援なんかは、塾に行っている子は、もう放っておいても勝手に行っている子たちは幾らでもいるじゃないですか。だけど、家計が厳しくて塾に行けない子たちのために、小学生も中学生も高校生も、学習を支援する場所って、文京区内に何か所もあるんですよ。高校生まで見ているんです。ちゃんと受験、大学受験までサポートできるように。それは当然1円もお金はもらわない、区のお金でやっているんですね。だけど、その場所は公開していないんです。クローズなんです。対象の方のところにはちゃんと手紙が届いて、こういうのがあるので必要だったら来てください、1回のぞきに来てでもいいし、相談に来てくださいとかというのを細かくやって、来ると決まったら、もう、今度その、NPOに委託しているケースがほとんどですけど、そこと直接やり取りをしてもらうことになって、それは、広げる必要は僕はないんだと。

【ファシリテーター】

まずは情報をキャッチしに行くのが入口で、そこから多世代交流も広がっていくのかなという感じですね。何があるのかな。何かある。

【参加者】

一旦、今、この場の多世代交流のそういう福祉的な意味合いのは、一旦、区にお任せするという、情報のあれもあるから、置いておいて、私たちが多世代で交流したい場合に、その情報をどこで知ろうかみたいな話ということですよ。どうやって仕入れましょうね。

【参加者】

高齢の方とか子どもとかどうしたらいいのか。私たちは調べればいいのかもしいけど。

【参加者】

区報もあるけどね。

【参加者】

区報にそういうのってありますか。何か見たことがない。

【参加者】

毎掲載っているわけじゃなさそうですね。

【参加者】

お魚をさばくとか、それは目につきますよね。

【参加者】

そういうのはよくやっていますよね。

【参加者】

そうなんですか。

【参加者】

フレイル予防とか認知症の方の。

【参加者】

でもやっぱりフレイルとかになると、年配の方なのかなと思うと、もう多世代という感じですかね。しかも結構、抽せんが多くないですか。私、文京区のいろいろ出すやつ、出しているんですけど、ほぼ当たらないです。何か、1回だけ、和刺しゅうというのがあってやったんですけど、和刺しゅう、めちゃくちゃ宿題があったんですよ。それでほぼ家で宿題だったんですけど、子どもが小さいときに何かやりたいと思って行ったんですけど、宿題が大変過ぎて無理だなとか思って。

【参加者】

当たったのに。

【参加者】

そう。でも何かやっぱり、すごいハードルがすごい高いなとは思ったんですよ。いろんな人が応募できるのって、やっぱりやりたい人も多いのかなと。

【参加者】

それは多世代交流を目的としているわけじゃないですよ。和刺しゅうを目的として。

【参加者】

状況を知るというところで、区報で、それこそ、私、正直言って、ラインとかSNSで区の情報が見られるって今日知ったんですよ。で、大体、引っ越して、4月、8月、決まっているじゃないですか。12月ちょっとかかるかなぐらいじゃない。そのときの区報に、そういう情報、ここからいろんな情報が入手できますよと、そのご案内もしてほしいなと思いましたね。

【参加者】

私も文京区はフォローしているんですけど、まさか地域活動センターをフォローしなきゃいけないとは知らなかった。そうしたらあんなに情報が出てくるんだと、ちょっと思いました。

【参加者】

なのでやっぱり、区報は絶対、一応ポストに入るじゃないですか。必ず住んでいれば。なので、そこでそういう情報が入りますよと、スマホとかあまりそういうのをご覧にならない方でも、最低限、その号のときには文書が載っていて、そこで、どこで何をやっているのかを情報

が得られるような形というのは一つあるのかなと。

【参加者】

今、1個思いついたんですけど、私、下の子が小学校3年なので、学校からチラシをいっぱいもらってきますよね。でもあのチラシって、子ども向けのイベントのチラシだけど、保護者向けのイベントのチラシを、小学校を介して配るといのはどうなんだろうと。

【参加者】

すごくないですか。ランドセルの中でぐちゃぐちゃになったりして。

【参加者】

なるけど、見ますよね、一応ね。

【参加者】

本当。うちなんか、気づいたときには終わっていたとか結構あるので。

【参加者】

うちもなるんですけど、別に必ず完璧に全員が見なくてはいけないという趣旨ではなくて、触れる機会を増やすという意味で。学校を通じてきたチラシって割と安心感がないですか。ちゃんとしたイベントなんだろうなみたいな。そこに親が子どもと一緒に来て多世代交流をするとか、そういう趣旨のイベント。

【参加者】

あれは多分、教育委員会とかにお願いしてやっているんですかね、どうなんですか。

【ピロリン】

基本的に校長会とかは嫌がるんです。

【参加者】

それはそうだと思います。

【ピロリン】

自分たちの負担が増え、学校の先生たちの負担が増えるだけなので。学校外の人が学校の生徒たちを対象にチラシを配りたいときには、それなりに何か月も前にそういうところで説明をしてもらって、ちゃんと枚数分を学校別に分けて、自分たちで届けてというのを。

【参加者】

棚入れだけでも大変ですよ。

【ピロリン】

結構な手間暇ですよ。

【参加者】

大変なんですね。

【参加者】

紙もものすごい枚数ですよ。

【ピロリン】

だから、紙を辞めてくれという声もある。そうすると全部SNSになっちゃうかなと。

【参加者】

紙は、なるべく減らしたほうがいいですか。そこまで聞くのもぶしつけなのかなと思うんですか。

【参加者】

思います。私も書記とかいろいろやっていたので、大変だと思う。

【ファシリテーター】

じゃあ、そろそろ結論に。多世代交流を中心に、文化的で豊かな暮らしや生活を実現するためにできることとは。すごいとっ散らかっちゃいましたけど。

【参加者】

みんなでやりましょう。区長、区長じゃないピロリンも。テニスを。

【ノブ】

今日結論を出さなくてもいいんですよ。アイデアがいろいろ出ればいいんですよ。

【ファシリテーター】

すごい出ちゃっているんですけど。

【ノブ】

だから、それぞれ皆さんが今日ここに来て、今までやっていなかったけど、こんなことをやると、何かつながる場を知れるとか、自分がこんなことをやってみたいと思ったとか、そういうアイデアが、何かみんなから出てくるのかな。

【ファシリテーター】

大分出ている感じがしますね。多世代交流。

【参加者】

私、子どもが小さいときに、何かイベントとかに行って、体験申込みをしたら、物すごい待たなきゃいけなかったりとかしたんですよ。それが結構、何でも自分たちでできるんじゃないかということで、お母さんが何人か集まって、何か出し物をやったんですよ。それで、一人は

苔玉とか、バスボム作りとかいうのをやって、チケットをみんなに渡して、それで、その子が、ここでじゃあバスボムをやりたいですと、お母さんに、うちを提供してやったんですけど。そういうのとかはあれだけど、イベントでやっているけど、そのイベントだともものすごい数が少なかったり、すぐにいっぱいになっちゃったりするから、その夏祭りとかでも、うちは衛生面とかそんなの、何か資格とかを取らなくてもいいから、空揚げ屋さんとかたこ焼き屋さんとか、いろんなものを用意して、お母さんのところで買ってもらったりとかしていたんですけど。そういう、お母さんたちがやればいいけど、それが難しいですよ。パネルシアターとかもすごい作っていて。

【ファシリテーター】

お母さんたちが。

【参加者】

そうです。地域の大人ができる得意なことを、何かちょっと協力できる人がいたら、やる人が増えるとか、ちょっと参加できる、資格がないから駄目とかそういうのじゃなくて、その人の特技、ちょっとお花が私にできますとか、そういうのを、何か本当に地域の小さなお祭りとかで募集したりとかってどうですか。

【ファシリテーター】

いいと思います。付箋に書いてください。

【参加者】

地域のお祭りって、年寄りから子どもまで参加するから。やっぱり地域だとまとまるんじゃないかしらね。

【参加者】

しかも、何か、結構、射的とか町内会とかのだと、結構、買ってきたものを、射的でおじいさんとかおばあさんとかが見ているみたいなのだから、そういうもののもっと小さい感じ。何か、ただのお祭りじゃなくて、もっと何かこういろんなことを体験できる場を、その人のいろんな特技、まちの人たちの特技を。

【ファシリテーター】

それは面白い。

【参加者】

まちの人特技広場。

【参加者】

面白い。

【参加者】

本当、何か、読み聞かせとかでも。

【参加者】

定年した人とかでも出てきやすかったり。

【参加者】

ここが大人と触れ合う入口のね。

【参加者】

それ、面白いですね。まちの人の特技。どうしましょうね。

【参加者】

あとね、私も昔、文京区のシビックのところでやっていた……。

【ファシリテーター】

すごい。アイデアが。

【参加者】

着物の交換会というのをやっていたのを知っていますか。

【ピロリン】

リサイクルプラザの。

【参加者】

あれがなくなったのがすごい残念で。

【ピロリン】

あれは理由があってですね。

【参加者】

そうなんですか。

【ピロリン】

まず汚いの。

【参加者】

それは嫌ですね。

【ピロリン】

実質もう捨てるしかないようなものが来ると。あと、業者が買いに来る。あれはボランティアでみんなやっていたんです。リサイクル協会みたいな人たちが。いわゆる消費者の方たちが、

その人たちがもうギブアップ。

【参加者】

私、2つぐらい、すごくいいのを、昔の銘仙とか頂いて、すごくよかったですよね。もったいないですね。

【参加者】

面白い。まちの人の特技披露会。一人一人いろんな特技があったら。

【ファシリテーター】

活躍の場ができて。

【参加者】

特技披露祭り。

【ファシリテーター】

絶対面白い。

【参加者】

私、それ出店したい。

【参加者】

でも何か、絶対そういうのがあると思う。

【ファシリテーター】

そろそろお開きの時間になってきたんですよね。多くのアイデアと、もう既にあることとかがいっぱい出てきて、いろんなことを知る機会になったかなと思うんですけども、じゃあ、アイデア集積のシートということで、こちらを区の方にお渡ししたいなと思います。

【ピロリン】

ちょっと最後にいいですか。

【ファシリテーター】

お願いします。

【ピロリン】

ぜひ、まちの特技祭りみたいなものを、それぞれの皆さんたちがお住まいの町会の人たちに、アイデアとして出してみたいですね。今日出てきたアイデアを。実は、コロナで広く5年間ほど、全ての活動が止まったわけです。その間でも、実は文京区の人口って増え続けていて、だけど町会の活動も何も、まちの活動が全部止まったじゃないですか。一番中心の2年半ぐらいは。その間に町会の役員さんたちは高齢化が進み、だけど何か、お祭り、夏

祭りをやろうとか、ラジオ体操をやろうとかと言うと、来る子どもの数だけは増えていて、何倍か増えていて、俺たちにはこれは無理だとなったわけです。

古くから住んでいる人は実は知っているんですけど、例えば、9月にこれからお祭り、いろんな地域で文京区もあるんですけど、お祭りでその子どもたちにお菓子を配ったり、縁日をやったり、何かしてあげているのって、お祭りの会計の中でやっているの、お祭りの奉納が上がらないと赤字になる仕組みなんです。ところが、みんな、うちのマンションはマンションで一括で町会費を払っているから、その町会費でやっているんだから行けばいいんだよというんだけど、それは町会活動のほうで使っているお金なんで、手ぶらで行く、もらうだけもらってくる、子どもを何人も連れて来られたら、もう町会の人たちも大赤字だという仕組みなんですよ。

【参加者】

なるほど。

【ピロリン】

町会さんも疲弊していて、だけど、活動を再開しなきゃならないので、この3年、町会活動のリニューアル補助金というのを出していて、昨年、一昨年は10万円ずつ出していて、何か1回止めちゃったものを、もう一回再開してくださいというのをお願いしています。そうしたら、もう俺たちに頼むなよ、もう限界なんだよという声が出てきていて、手伝ってほしいんですね、町会の人たち。お客さんとしては来てくれるけど、手伝いには来てくれないというのが悩みで、まさに〇〇さんのこの特技祭りは、お客さんじゃなくて自分が披露する側だから、スタッフの側の提案なんです。こういう話を町会の人たちに言うと、すごく喜ぶと思います。

【参加者】

私、町会に所属していないんですよ。

【ピロリン】

それは町会というかあれですけど、町会デビューしたほうがいと、その意味で。

【参加者】

どこの町会なのか、分かりませんよ。

【参加者】

ハードルが高い。常連さんたちの邪魔になるのかと。

【参加者】

ちょっとハードルがね、いきなり訪ねていくのもハードルが高い。

【ピロリン】

でもね、それが、それがもうその常連さんたちがもう弱り切っている。変わるのに良いチャンスのときなんです。実は、今年やった町会補助金というのが、町会の人で町会の人たちだけでやると5万円しか補助金が出ませんよと。町会の人で町会以外の人たち、それは学校のPTAでもいいし、何かその地域のスタッフでもいいし、グループでもいいし、青少年員さんでもいいし、誰でもいいし、大学のサークルでもいいし、そういう人たちと一緒に何かのイベントをやると、プラス5万円を2回。だから昨年まで10万円だったものが、計15万円使えるように予算拡大したんですよ。若い町会長さんとかは、これはチャンスだといって、いろんな活動を始めてくれています。ただ、始められないところがあるので、そこは主みたいな人たちだけで町会があるので、そこにこんな企画はどうですかという、もしかしたら、お願いしますと言うかもしれない。

【参加者】

つながりたい。

【ファシリテーター】

書いてください。町内会とつながる。

【ピロリン】

新しいものを自分たちだけで立ち上げるのって、すごくパワーがいるけど、高齢化しているとはいえ、組織として残っているところをうまく使うのは、パワーとしては半分くらいのパワーでできるはずなんです。自分でまちの特技祭をやろうとしたら、場所を探して、借りて、予算を通すんだと、一人じゃできないからお手伝いする人というやるけど、あるところに、私たちがこういう企画で、私たちも手伝うので皆さんも何かやってくれませんか、半分のパワーでできます。

【参加者】

ピロリンから、町会に対してこういうのが出たけどどうですかという周知をしていただけるようにしていただくとありがたいです。だって、会長が誰かも分からないです。

【参加者】

どこに町内会があるのかが分からない。どなたがリーダーなのかも分からない。

【参加者】

見るときって、お祭りでみんなふんどしとかで、インパクトがワーストというときしか見たことがないから。

【参加者】

声、かけられないものね。

【参加者】

家の周りを周っているのは知っているけど。

【ファシリテーター】

せっかくだから、ここの今日のみんなで町内会を調べてみて、自分たちの近所の。誰が会長でといったら、実はその人知っているとかいるかもしれないですか。

【ピロリン】

P T Aで一緒だった誰かの親父じゃんみたいな。

【参加者】

P T Aつながりなら。

【参加者】

でも、今、小学生とかいないから。

【参加者】

でも、町会一覧表があるよ。町会長の名前も。

【ピロリン】

区のホームページにあります。

【参加者】

そんなプライベートなことが。

【ピロリン】

文京区の地図が出ていて、このエリアは何々町会ですというのが、区のホームページで。町会、自治会のところを検索すると出てきます。

【ファシリテーター】

町内会長と触れ合おうみたいな会をつくってもらえたらいいね。

【参加者】

こういう区長の、ピロリンが町内会長になって、町内会長とダイアログの場所みたいな感じですか。

【参加者】

それもいいし、何か、町内会長と触れ合いたい人たちが集まる祭り。

【参加者】

突然、こうやって行って、町内会長と触れ合いたいかなとありませんか。

【参加者】

駄目ですか。意外と来るかもしれないし。

【参加者】

そうなんですけど、今、この話が出たからちょっと興味が出たんですけど。それまで何か面倒な。

【参加者】

ピロリン、これは私たちが、もし自分たちの住んでいるところの町内会に、これ、例えば、やりませんかと持っていくときに、ピロリンから、ぜひ町内会長のところに行けと言われたから来ましたというのはありなんですか。

【ピロリン】

あります。あとは、さっき、地域活動センターというのが文京区に9か所あると言いましたけど、そこの所長はそういうつなぐのも役割なので。

【ファシリテーター】

じゃあ、そこがいいですね、まずは。

【ピロリン】

ただそこで、その企画をいきなり持っていったら、なかなか難しいから、もうちょっと練りませんかというやり取りはあるかもしれないけど。

【ファシリテーター】

じゃあ、まずは地域活動センター触れ合おうの会みたいなの。

【参加者】

だからさっきの〇〇さんの話みたいに、せっかく勇気を出していっても、ちょっと門前払い的な態度をされると、心が折れますよね。

【参加者】

でもこれ本当にいいと思う。私、出たいと思ったもの。

【参加者】

多分、いろんな人ができる、いろんなことができる人がいっぱいいるんだなと思うんですけど。

【ピロリン】

来年の思い出横丁でどうですか。

【参加者】

商売の日なんですよ、休憩時間だけなら。

【ピロリン】

あれ、日曜日じゃないですか。

【参加者】

日曜日商売しているんです、うち。

【ファシリテーター】

忘れないうちに、地域活動センター。

【ノブ】

文京区は分からないけど、足立区では地域包括でも町内会とかつないでもらいましたよ。地域包括の方に連絡先も教えてもらっちゃって。

【参加者】

ごみ出しとかはちゃんとやっているんですよ。その担当が上がってくると。となってくると、町内会に属するメリットじゃないけど、何だろうってなっちゃって。

【ファシリテーター】

多世代交流。

【ピロリン】

多世代交流は、本当に町内会はいろんな人がいるので。うちなんか、母親が認知症なんですけど、地域包括とか民生委員さんたち以上に、町会の人たちが、お宅のお母さん、最近おかしいわよねとって、私たちに任してとって、しょっちゅうおふくろに電話をくれて、お昼を食べに行きましょうと言って、当日の朝断られたとって、心が折れるという。

【ファシリテーター】

すごい。そうやって地域が仲よくなっていくんですよ。

【参加者】

豊島ヶ岡町会。

【ファシリテーター】

もう調べた。さすが。

【参加者】

せっかくだから行ってみようかなと思って。大塚地活に行けばいいんだ。

【ピロリン】

うちの親戚も住んでいます。

【参加者】

そうですか。大塚地活の所長さんに、ピロリンに言われたからつないでくれと言いに行けばいいんですね。

【ファシリテーター】

たくさんのアイデアも出たところで、最後に、講評をピロリンより。

【ピロリン】

いろんな提案をいただきまして、ありがとうございます。やっぱり、こういう場でやると、何かみんなでやってみようかなという、ちょっとでもベクトルが前に進んでいただけるとありがたいなと思いますし、アイデアはずっと自分の中にしまっておかないで、出して、仲間と一緒に始めていくというのがいいことなので、初めの一步を踏み出すって、すごくハードルが高いじゃないですか。でも、今日はここに来た、ここに応募をしてくれた時点で、私はその初めの一步を、皆さんたちは既に踏み出したと思うので、2歩目はきっと簡単だろうというふうに思って、一緒に踏み出していただければありがたいと思います。ありがとうございます。

【ファシリテーター】

皆さん、たくさんの多世代交流に関するアイデアをありがとうございました。皆さんと同じように私自身も新しい知識を学ばせていただきました。今後の生活に活かしていきたいと思っています。

【広報課長】

はい。これもちまして終了いたします。ありがとうございました。